

校訓	盡 己	令和7年度学校通信 「松中だより」 第3号	発行日	令和7年5月20日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 成へ地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

【トライやる・ウィーク終了】

2年生のトライやる・ウィーク、3年生の修学旅行がそれぞれ終了しました。トライやる・ウィークでは80を超える事業所の方にお世話になりました。ご協力いただいた事業所の皆様、ありがとうございました。また保護者の皆様におかれましては、期間中日誌の記入や様々なお話をしていただいたことと思います。ご理解、ご協力いただきありがとうございました。

以下は、新社会人に求められる能力を調べたものです。事前、事後学習の観点の1つとして校長講話で生徒に伝えたものです。今後、社会で生きていくために必要な力です。トライやるを経験したみなさんには実感があるのではないのでしょうか？

自立した社会人に向かって、一層の成長を期待します。

【成長意欲】

新しい知識やスキルを積極的に学び、自己成長を追求する姿勢が重要です。

【まじめな姿勢】

責任感を持って取り組み、誠実に業務を遂行する姿勢が求められます。

【周囲を巻き込む力】

積極的にコミュニケーションを取り、周囲の力を借りながら、目標達成に向けて協力する姿勢が重要です。

【リーダーシップ】

チームをまとめ、目標達成に向けた行動を促す能力が求められます。

【フォロワーシップ】

リーダーの指示に従い、チームの一員として協力する姿勢。

【チームワーク】

チーム全体の目標達成のために、協力し、助け合う姿勢が求められます。

【困難に立ち向かう力】

困難にぶつかっても、諦めずに解決策を模索し、乗り越える姿勢が重要です。



【修学旅行を終えて】

5月15日（木）から17日（土）長崎方面の修学旅行に行ってきました。天候が心配されましたが、影響を受けることなくほぼすべてのプログラムを無事終えることができました。プログラム遅れの関係で、3日目の福岡県太宰府天満宮でのお守り等購入の時間がとれませんでした。申し訳ありませんでした。

「準備8割、本番2割」について

班別学習後、活動の様子を尋ねると「しっかり調べてきたので、バッチリでした」と元気な返事が返ってきました。やはり、調べれば調べるほど、準備すればするほど本番は充実するのだなと思いました。学年レクでの3組のY君のカラーガードを見たときも、「すごいなあ」と思うと同時に、「どれだけ練習したのだろう」「相当な時間、練習したのだろうな」と思いました。

しっかりした事前学習が、本番の充実につながります。そして本番の充実が事後学習の深さにつながります。みなさんの中身のある事後学習に期待しています。



「修学旅行での学び」について

- ・戦争をなくすにはどうすればいいか

- ・長崎はなぜ異文化を排除せず、受け入れ、自分たちの伝統として引き継いできたのか

私はこの2つの課題をもって、長崎に行きました。

2日目の龍踊りのボランティアの方は、「1人でも欠けたり、いい加減な事をしていると上手いかな。チームワークや協力が大事である」とおっしゃっていました。

3日目のペーロンのボランティアの方に「どうしたら勝てますか」と聞くと「やはり、声をしっかり出すことやね」とおっしゃいました。吉木先生によると、声は「息」であり、「息」は漢字の通り、自分の心です。声をそろえるというのは気持ち、心をひとつにするということです。「心をひとつにする」というのはどういうことでしょうか。それはまわりの状況に気づき、人の気持ちを考えること、他人を大切にすることだと思います。

- ・戦争をなくすにはどうすればいいか

- ・長崎はなぜ異文化を排除せず、受け入れ、

自分たちの伝統として引き継いできたのか

この答えは身近な、日常生活の中にあるような気がします。

そして、みなさんの修学旅行の課題である、

「私たちが未来に繋ぐべきこと」が見えてきた気がします。

今までの学校生活で身につけているはずの「自律と主体性」とあわせて、卒業までの学校生活が、そして卒業以降の人生が、この修学旅行で見つけた「未来に繋ぐべきもの」を大切にしながら、よりいっそう充実したものになることを期待しています。

